

## 【別紙2:公益目的支出計画実施報告書】

## 2. 公益目的支出計画実施報告書

【平成23 年度(2011/6/1 から 2012/5/31 まで)の概要】

1. 公益目的財産額	30,950,998円
2. 当該事業年度の公益目的収支差額 ((1)+(2)-(3))	3,816,483円
(1)前事業年度末日の公益目的収支差額	0円
(2)当該事業年度の公益目的支出の額	7,656,173円
(3)当該事業年度の実施事業収入の額	3,839,690円
3. 当該事業年度末日の公益目的財産残額	27,134,515円
4. 2の欄に記載した額が計画に記載した見込み額と異なる場合、その概要及び理由 注	
計画作成時点の見込みに比べ、継1の実施事業の内、研究の奨励事業が当該事業年度においては実施されなかったこと、及び継2の実施事業における収入、支出が計画した金額よりも減少したこと等により、2の欄に記載した額が計画した見込み額と異なり、公益目的収支差額は見込み額を下回ったが、翌事業年度においては研究の奨励事業の実施も予定されており、今後の実施事業の予定も鑑み、公益目的支出計画の実施期間に関しては影響がないものとする。	

注:詳細は、別紙様式に個別の実施事業等ごとに記載してください。

## 【公益目的支出計画の状況】

公益目的支出計画の 完了予定事業年度の末日	(1)計画上の完了見込み	平成31年5月31日
	(2)(1)より早まる見込みの場合	

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計画	実績	計画	実績	計画
公益目的財産額	円	円	30,950,998円	30,950,998円	26,835,763円
公益目的収支差額	円	円	4,115,235円	3,816,483円	4,115,235円
公益目的支出の額	円	円	10,390,235円	7,656,173円	10,390,235円
実施事業収入の額	円	円	6,275,000円	3,839,690円	6,275,000円
公益目的財産残額	円	円	26,835,763円	27,134,515円	22,720,528円

注:前事業年度及び当該事業年度の計画及び実績の額、翌事業年度の計画の額を記載してください。

## (2)〔公益目的支出計画実施報告書〕

## 【実施事業(継続事業)の状況等】

(事業単位ごとに作成してください。)

事業番号	事業の内容
継1	学会賞の授与、研究の奨励、文化フォーラム開催等の学術振興事業

## (1)計画記載事項

事業の概要	
可視化情報に関する学術的貢献をたたえ、その振興を図るため、論文賞、技術賞、奨励賞、映像賞など学会賞を贈呈する。可視化情報に関するそれぞれの研究分野における学術的進展を図るため、風洞研究会、マイクロフロー・ビジュアルイゼーション研究会、サイエントフィックアート研究会、ウェブレットと知的可視化の応用研究会、みえる化研究会等の研究会を実施する。可視化情報の普及を目的とし、一般市民を対象とした文化フォーラムを開催する。これらにより、学術振興を図る。 この事業に関する特定の財源や必要となる財産はない。	
(1)当該事業に係る公益目的支出の見込額	1,204,050円
(2)当該事業に係る実施事業収入の見込額	0円

## (2)当該事業年度の実施状況

事業の実施状況について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学会賞等の授与               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 可視化情報学会学会賞・論文賞の授与</li> <li>2. 可視化情報学会学会賞・技術賞の授与</li> <li>3. 可視化情報学会学会賞・奨励賞の授与</li> <li>4. 可視化情報学会・映像賞の授与</li> <li>5. 第39回可視化情報シンポジウムベストプレゼンテーション賞の授与</li> <li>6. 全国講演会(富山2011)ベストプレゼンテーション賞の授与</li> </ol> </li> <li>● 文化フォーラムin仙台(2011年12月18日、仙台、東北大学・片平さくらホール)の開催</li> </ul>	
(1)当該事業に係る公益目的支出の額	698,843円
(2)当該事業に係る実施事業収入の額	0円
(3)((1)-(2))の額	698,843円
(4)当該事業に係る損益計算書の費用の額	698,843円
(5)当該事業に係る損益計算書の収益の額	0円
(1)及び(2)に記載した額が計画に記載した額と異なる場合、その内容及び理由 注	
当該事業年度における研究の奨励事業につき、2つの研究会から研究の奨励の申請がなされたが、研究会の都合により、翌事業年度での実施となり、当該事業年度においては実施されなかったため、公益目的支出の額が公益目的支出計画の計画額よりも減少した。翌事業年度においては、研究の奨励事業も実施される予定であり、公益目的支出計画全体の実施に影響はないものとする。	

注:この事業に係る公益目的支出の額等の変更が、公益目的支出計画全体の実施に影響を与えるか否かについても記載してください。

(2)〔公益目的支出計画実施報告書〕

【実施事業(継続事業)の状況等】

(事業単位ごとに作成してください。)

(3)実施事業資産の状況等

番号 注	資産の名称	時価評価資産の 算定日の時価	移行後に取得した 場合の取得価額	前事業年度末日の 帳簿価額	当該事業年度末日の 帳簿価額	使用の状況	
		0円	0円	0円	0円		

注:算定日に有していた資産については、移行認可申請書(別表A公益目的財産額の算定)に記載した資産の番号(イ1、ロ2・・a1・など)を記載してください。

## (2)〔公益目的支出計画実施報告書〕

## 【実施事業(継続事業)の状況等】

(事業単位ごとに作成してください。)

事業番号	事業の内容
継 <sup>1</sup>	学会賞の授与、研究の奨励、文化フォーラム開催等の学術振興事業

## 【実施事業収入の額の算定について】

(1)「損益計算書の収益の額」に対応した(2)「実施事業収入の額」を記載し、その算定に当たっての考え方を記載してください。

損益計算書の科目	(1)損益計算書の 収益の額	(2)実施事業収入 の額	(2)の額の算定に当たっての考え方 注	
	0円	0円		
計	0円	0円		

注:実施事業収入の額の算定の記載事項について、必要な説明書類を添付してください。

## 【公益目的支出の額の算定について】

(1)「損益計算書の費用の額」に対応した(2)「公益目的支出の額」を記載し、その算定に当たっての考え方を記載してください。

損益計算書の科目	(1)損益計算書の 費用の額	(2)公益目的支出 の額	(2)の額の算定に当たっての考え方 注	
その他	698,843円	698,843円	異なる費用科目はないため、(1)と(2)は同額である。	
計	698,843円	698,843円		

注:(1)と(2)が同額である場合には、「科目」欄を「その他」として、まとめた額を(1)及び(2)欄に記載してもかまいません。

## (2)〔公益目的支出計画実施報告書〕

## 【実施事業(継続事業)の状況等】

(事業単位ごとに作成してください。)

事業番号	事業の内容
継2	学会誌及び学術図書等の刊行事業

## (1)計画記載事項

事業の概要	
<p>可視化情報の普及発展を図るため、可視化情報学会誌(年4回)、その増刊号(可視化情報シンポジウム、全国講演会等)を発行する。可視化情報学会の和文論文集である可視化情報学会論文集を刊行する。可視化情報学会論文集に掲載される論文は、可視化情報の技術、応用計測、理論・原理、解析およびそれらに関連のあるもので、会員間の意志の疎通、知識の交換および相互の啓発に有効なものとする。可視化情報学会の英文論文集Journal of Visualizationを発行する。本誌は国際的にも高く評価されているが、国際的情報発信の拡大と内容の一層の充実を図るべく、2010年1月よりSpringer社から出版される体制に移行し、会員へのサービスも充実し、かつ国際的認知度は一層高まりつつある。その他、学術図書の発行を行う。</p> <p>この事業の財源は、広告収入、学会誌頒布収入、学会資料収入、論文掲載料・別刷代収入である。また、この事業に必要な財産は特にない。</p>	
(1)当該事業に係る公益目的支出の見込額	9,186,185円
(2)当該事業に係る実施事業収入の見込額	6,275,000円

## (2)当該事業年度の実施状況

事業の実施状況について	
<p>● 学会誌等出版物の発行</p> <p>1. 会誌の発行: 会誌第31巻122号～第32巻125号、第31巻増刊号1(第39回可視化情報シンポジウム)、第31巻増刊号2(可視化情報 全国講演会(富山2011))を発行した。発行部数は会誌各号1500部、増刊号1・390部、増刊号2・230部である。なお、会誌122号は「原子力の可視化」、123号は「固体高分子形燃料電池の可視化」、124号は「風洞の可視化」、125号は「先端可視化」を特集した。</p> <p>2. 論文集のオンライン発行: 毎月</p> <p>3. 英文論文集の発行: 英文論文集“Journal of Visualization”Vol.14、No.3～No.4、Vol.15、No.1～No.2号を発行</p>	
(1)当該事業に係る公益目的支出の額	6,957,330円
(2)当該事業に係る実施事業収入の額	3,839,690円
(3)((1)-(2))の額	3,117,640円
(4)当該事業に係る損益計算書の費用の額	6,957,330円
(5)当該事業に係る損益計算書の収益の額	3,839,690円
(1)及び(2)に記載した額が計画に記載した額と異なる場合、その内容及び理由 注	
<p>当該事業年度において、学会誌及び学術図書等の発行部数及び論文投稿者数の減少等により、計画作成時点の見込みに比べ、収入及び支出共に計画額よりも減少している。</p> <p>当該実施事業全体としては、収支共に減少しており、公益目的収支差額は、公益目的支出計画の計画額よりも増加しているため、公益目的支出計画全体の実施に影響をあたえることはないものとする。</p>	

注:この事業に係る公益目的支出の額等の変更が、公益目的支出計画全体の実施に影響を与えるか否かについても記載してください。

(2)〔公益目的支出計画実施報告書〕

【実施事業(継続事業)の状況等】

(事業単位ごとに作成してください。)

(3)実施事業資産の状況等

番号 注	資産の名称	時価評価資産の 算定日の時価	移行後に取得した 場合の取得価額	前事業年度末日の 帳簿価額	当該事業年度末日の 帳簿価額	使用の状況	
		0円	0円	0円	0円		

注:算定日に有していた資産については、移行認可申請書(別表A公益目的財産額の算定)に記載した資産の番号(イ1、ロ2・・a1・など)を記載してください。

## (2)〔公益目的支出計画実施報告書〕

## 【実施事業(継続事業)の状況等】

(事業単位ごとに作成してください。)

事業番号	事業の内容
継2	学会誌及び学術図書等の刊行事業

## 【実施事業収入の額の算定について】

(1)「損益計算書の収益の額」に対応した(2)「実施事業収入の額」を記載し、その算定に当たっての考え方を記載してください。

損益計算書の科目	(1)損益計算書の収益の額	(2)実施事業収入の額	(2)の額の算定に当たっての考え方 注
広告料収入	584,500円	584,500円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会誌 4回/年(7, 10, 1, 4月)各回1500部発行し、企業および大学等からの広告を募っており、実施事業収入とする。 +企業広告2社および未収金(63,750円)を含め計159,500円</li> <li>+教員募集広告 1大学 計80,000円 合計239,500円</li> <li>・シンポジウム論文集 1回/年390部発行し、企業からの広告を募っており、実施事業収入とする。 +企業広告3社 合計158,000円</li> <li>・全国講演会論文集 1回/年230部発行し、企業からの広告を募っており、実施事業収入とする。 +企業広告4社 合計187,000円</li> </ul>
学会誌頒布収入	214,501円	214,501円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各大学/企業図書館に配架するために学会誌の定期購読の実施事業収入とする。 +購読先12機関および未収金(73,501円)を含め合計214,051円</li> </ul>
学会資料収入	2,178,689円	2,178,689円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジウム論文集および全国講演会論文集の販売収入であり、実施事業収入とする。 シンポジウム論文と全国講演会論文を会員がセット予約購入すると7,000円。当日販売および個別販売は価格を若干高く設定している。</li> <li>*シンポジウム論文集 非会員 6,000円×4名、会員(予約購入) 3500円×92名、会員(当日または個別購入) 5,000円×94名 合計822,000円</li> <li>*全国講演会論文集 会員(予約購入(今回のみ参加予約者もこの価格となった)) 3,500円×165名、会員(当日または個別購入) 5,000円×16名 合計657,500円</li> <li>・刊行物の販売収入であり、実施事業収入とする。 講習会テキストの実施事業収入および各種資料のバックナンバー販売 +7件 合計89,700円</li> <li>・英文論文集 (R)独シュプリンガー社よりJournal of Visualization(英文雑誌)のロイヤルティであり、実施事業収入とする。 本年は先方の支払い遅延により2年分が計上されている。 +210,0292円および399197円で合計609,489円</li> </ul>
論文集掲載料・別刷代収入	862,000円	862,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和文論文集掲載料収入であり、実施事業収入とする。</li> <li>和文論文集を投稿・掲載するにあたり、1論文:6頁まで10,000円/頁。超過頁は20,000円/頁。別刷代50部を超えると超過印刷代を請求。 +論文投稿者人数11名 合計862,000円</li> </ul>
計	3,839,690円	3,839,690円	

注:実施事業収入の額の算定の記載事項について、必要な説明書類を添付してください。

## 【公益目的支出の額の算定について】

(1)「損益計算書の費用の額」に対応した(2)「公益目的支出の額」を記載し、その算定に当たっての考え方を記載してください。

損益計算書の科目	(1)損益計算書の費用の額	(2)公益目的支出の額	(2)の額の算定に当たっての考え方 注
その他			

	6,957,330円	6,957,330円	異なる費用科目はないため、(1)と(2)は同額である。
計	6,957,330円	6,957,330円	

注：(1)と(2)が同額である場合には、「科目」欄を「その他」として、まとめた額を(1)及び(2)欄に記載してもかまいません。



## 別表A〔公益目的支出計画実施報告書〕

## 【公益目的支出計画実施期間中の収支の見込みについて】

## (1) その他の主要な事業について

変更の内容及び公益目的支出計画の実施に対する影響等 注1
該当なし

注1: その他の主要な事業として、「公益目的支出計画実施期間中の収支の見込み」に記載した事業のうち、その事業の内容や実施方法に変更があった場合に、事業番号、変更の内容、その理由及び公益目的支出計画の実施に対する影響を記載してください。

また、新たにその他の主要な事業を開始した場合は、その旨、当該事業の概要及び公益目的支出計画の実施に対する影響を記載してください。なお特に記載すべき内容がない場合はその旨入力してください。

## (2) 資産の取得や処分、借入について

実施内容(計画の変更内容)及び公益目的支出計画の実施に対する影響等 注2
該当なし

注2: 「公益目的支出計画実施期間中の収支の見込み」の備考欄に記載した多額の借入や施設の更新、高額財産の取得・処分等の活動を実施した場合は、公益目的支出計画に与えた影響を記載してください。また、「公益目的支出計画実施期間中の収支の見込み」の備考欄に記載したもののうち、計画内容に変更があった場合に、変更の内容、その理由及び

公益目的支出計画に対する影響を記載してください。

また、「公益目的支出計画実施期間中の収支の見込み」の備考欄に記載したもの以外で、法人全体の財務に大きな影響を与える活動を新たに予定する場合は、その内容、理由及び公益目的支出計画に対する影響を記載してください。なお特に記載すべき内容がない場合はその旨入力してください。

## 別表B〔公益目的支出計画実施報告書〕

## 【引当金等の明細】

## (1)実施事業に係る引当金

番号	引当金の名称		目的		事業番号
	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
1	退職給付引当金		職員の退職給付に備えるため		共通
	3,600,000円	0円	3,600,000円	0円	0円

## (2)(1)以外の引当金のうち、算定日において計上していたもの

番号	引当金の名称		目的		期末残高
	期首残高	当期増加額	当期減少額		
			目的使用	その他	
	0円	0円	0円	0円	0円

## (3)「その他支出又は保全が義務付けられているもの」としたもの 注

番号	財産の名称		目的		期末の価額
	期首の価額	当期増加額	当期減少額		
			目的使用	その他	
	0円	0円	0円	0円	0円

注:算定日において、退職給付会計導入に伴う変更時差異の未処理額を公益目的財産額から控除した場合については、当該未処理額は記載不要です。なお特に記載すべき内容がない場合は空欄のまま「登録」ボタンをクリックしてください。